

日刊 動労千葉

82,2,10

No. 965

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六・公衆電話三二七二〇七

二月七日、船橋勤労会館において「八〇年代を闘う第三回労組活動家懇談会」が、全国から五三労組・団体、三二〇名の活動家を集めて開かれました。集会は、内外情勢の戦争へむけた高まりのなかで敵の攻撃の焦点が三里塚と国鉄にしばられているこ

と、二期着工阻止の闘いに動労千葉を先頭に、全国の労働者の決起をかちとること、そのことが、右翼労戦「統一」と三五体制攻撃を打ち破る道であることが確認されました。本号では「第三回労組懇」における集会宣言を掲載します。

集会宣言

われわれは、内外情勢がいよいよ戦争の危機と激動の様相を深めている中で、「第三回八〇年代を闘う労組活動家懇談会」を、船橋市勤労会館において開催し、既成労働運動指導部の無力さと、とめどもない屈服を弾劾し、3・28三里塚に労働者本隊の総決起をかちとり、二期強行攻撃を粉碎し、一切の反動攻撃をうち破る闘う方針を満場一致決定した。

われわれは、二年前の、八〇年二月一六日、第一回八〇年代を闘う労組活動家懇談会を圧倒的に成功させ、日帝・支配階級の侵略と反動攻撃に対決し、八〇年代労働運動の戦闘的再生をきりひらき、大方針を内外に打ち出し、動労千葉一、三〇〇組合員を先頭に、国家権力・動労「本部」・革マルなど、密集せる反動を粉碎し、八一年三月ジェットストライキを断固としてたたかいた。昨年一〇・一一三里塚現地闘争には、堂々と一、三〇〇の隊列で登場し、「動労千葉支援基金」運動の全国的展開と三、〇〇〇万円突破など新たな力強い戦闘的潮流として確実に前進をかちとってきた。

今日、われわれをとりまく内外情勢は、戦争の危機と激動の様相を一層強めている。アメリカ・レーガンの反核集会・デモの爆発、さらにはポランド人民の決起とそれに対するヤルゼルスキー政権の戒厳令弾圧の強行。さらに、日帝・支配階級は、自らの体制的危機突破をかけて、軍事大国化・改憲へむかって戦争政策と大反動攻撃を急ピッチで強行しつつある。大軍拡予算と軍備増強・三里塚二期強行・反同盟破壊・解体攻撃の激化。

国家財政危機を逆手にとった「行革」と未曾有の首切り大合理化、戦争のための国家体制構築にむけた大攻撃として強行せんとしている。

とくに、第二臨調は、「国鉄分割論」「民営論」「国鉄二〇万人体制」というすさまじいキャンペーンを行い、国鉄労働運動を根底から破壊、解体しようとしている。

また、昨年一月一四日の「統一準備会」の発足は、右翼労戦「統一」攻撃こそは、労働組合を戦争を翼賛する勢力へと変質させ、産業報国会化せんとする日帝・支配階級の反動攻撃の一環に他ならない。

既成労働運動指導部は、こうした日帝・支配階級の戦争政策と大反動攻撃に対し、全く無力なばかりか、つぎつぎと屈服し、動労「本部」・革マルに至っては、「なだれ込み労働統一推進」「国鉄必要論」企業防衛主義路線に労働運動を積極的に推進するといふ戦後労働運動史上最大の裏切りを行い、その反動性をむきだしにしている。

まさに、日本労働運動は、重大な試練と危機に直面している。いまこそ既成労働運動指導部の腐敗と屈服をのりこえ、新たな力強い戦闘的労働運動の奔流を登場させなければならない。

今日、日帝・支配階級の全体重をかけた、軍事大国化・改憲攻撃の突破口として、三里塚二期着工攻撃が全面的に開始されている。「農地死守・軍事空港粉砕」をかかげ、一六年間にわたって実力闘争をつらぬいてきた、三里塚農民に対し、「強制収用」「土地強奪のどろ喝をふりかざし、労働同盟を解体し、反戦反基地闘争の砦」「三里塚闘争を圧殺・解体しようとしているのである。」「三里塚の決意も新たに総力をあげて、二期阻止・三里塚闘争勝利にむけて、戦闘宣言を発し、全国に三・二八現地大闘争への総力結集を訴えている。

われわれは、この反同盟の呼びかけに、いまこそ労働同盟の真価をかけて全力で応え、三里塚二期決戦に総決起しようではないか。

巨万の闘う労働者・人民の力で、三里塚二期着工攻撃を粉碎し、日帝・支配階級の軍事大国化・改憲攻撃粉碎に向っての総反攻の一大突破口としようではないか。

全国の闘う労働者諸君、

三・六全国労働者集会に総結集せよ、

三・二八三里塚現地大闘争に総決起せよ、

わが労働者・人民の未来は、この三里塚二期決戦の爆発の中にある。

右、宣言する。

一九八二年二月七日

第三回八〇年代を闘う労組活動家懇談会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ、